中１数学　空間図形

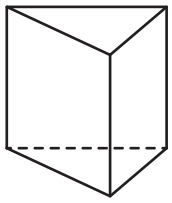
立体の表し方 (2)

名前

投影図（とうえいず）

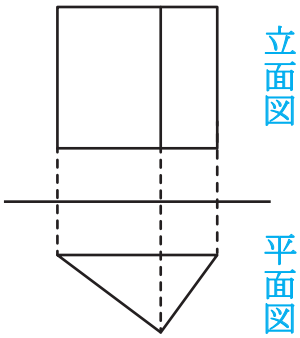
ある立体を表すときに、平面上に正面から見た図と上から見た図を組み合わせて表すことがある。

このとき、正面から見た図を立面図、真上から見た図を平面図、その二つを組み合わせた図を投影図という。



三角柱の見取図

→



三角柱の投影図

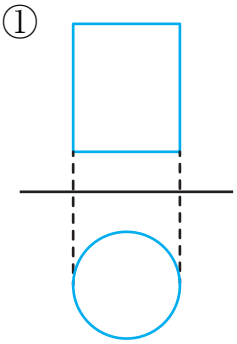
投影図をかくときには、見える辺は実線で、見えない辺は破線でかく。

※立体を平面で表す方法には、投影図の他に見取図や展開図などがある。

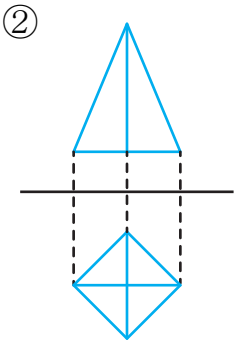
【１】①から④の投影図は、次の立体のうち、それぞれどの立体を表していますか。

三角柱、四角柱、円柱、三角錐、四角錐、円錐、球

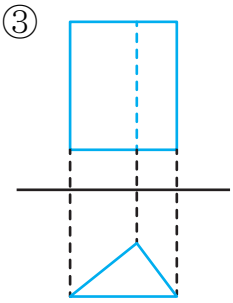
①



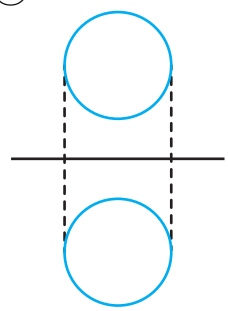
②



③



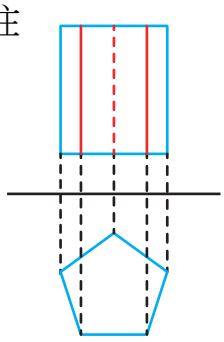
④



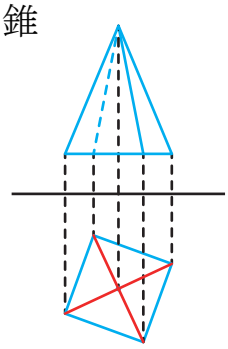
答え　①　円柱　　②　四角錐　　③　三角柱　　④　球

【２】次の①、②の投影図に不足している部分をかきたして、投影図を完成させなさい。

① 五角柱



② 四角錐



見える辺は実線で、見えない辺は破線でかく。
対応する頂点どうしは破線で結ばれているので、それをもとに足りない線をかく。

このプリントはウェブサイトで無料ダウンロードできます。© 無料学習プリント【ちびむすドリル】http://happylilac.net/syogaku.html